



- 学校教育目標 : ふるさとを愛し、ふるさとから愛される「ときわっ子」の育成
- めざす学校の姿 : 美しい学校（美しい心の育成&美しい環境の整備）
- めざす子どもの姿 : いつも笑顔で 元気です！



## 記憶に残す

校長 川村 敬志

5年生の教室に入ると、子どもたちが「野口英世、やなせたかし」など偉人と呼ばれる人々について調べていました。伝記に書かれた人物の生き方について、自分自身と結びつけて考えをまとめるという学習でした。11月20日の朝、宿泊学習の出発式があり、5年生に「体が日に日に成長していく時期を迎えている人が多いと思いますが、心の成長の仕方は体と違います。心は階段のように成長していきます。宿泊学習を心が成長するきっかけにしてください」と話したところです。伝記などの書物も、心が成長するきっかけになるものですし、5年生の更なる成長が楽しみです。

さて、自分の生き方や考え方に影響を与えた【記憶に残る言葉】は、どなたもお持ちだと思います。私は教職が長いので教育に関する言葉が多いです。一つは「学んだことを忘れた後に残っているものが学力」です。例えば、小学2年の時に学んだ九九。九九をどのように学んだのか覚えている方は少ないと思いますが、九九は身につけている、ということです。若い頃先輩から教えてもらったこの言葉を調べてみました。すると、「教育とは学校で学んだことをすべて忘れた後に残るものである」という言葉が見つかりました。アインシュタインの言葉でした。

学校でどのように学んだのか、その多くを忘れます。ただ、記憶に残っている場面もあります。私は、【記憶に残る授業は心を育てる】と考えています。

私が小学生の時です。その日の理科は、「私の父が亡くなった」という知らせを受けました。この授業が終わった後、病院に行きます」という先生の言葉で始まりました。机の上にはビーカーとうすく色のついた液がいくつか置かれています。液同士を混ぜると色が変わります。色の変わり方のきまりが見つかりません。混ぜると、思いもしない色に変わるのです。その液の正体は、酸性・中性・アルカリ性の液にBTB溶液を入れたものだったのではないかと考えています。きっと、水溶液の性質に興味をもたせるために、先生が準備された授業だったのでしょう。あの日の先生の言葉、没頭した実験が今も脳裏に焼き付いています。その後、理科好きの少年に育った私は、大学で小学校・中学校理科・高等学校理科の教員免許を取得し、悩んだ末、小学校の先生になる道を選びました。

記憶に残る授業は人それぞれだと思います。小学校6年間で受ける約5800時間の授業の中に一つでも、夢や生き方につながる【記憶に残る授業】があると素敵だと思っています。これからも努力していきます。



6年生と大人の熟議



走り方教室(長距離)



学校安心についての講話



人権教室



キャリア教育「好きから始まる未来のお話」